

特集

Special  
Feature  
Article

# 平成29年度国有林モニター 現地見学会を開催

## 企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

国有林モニターの皆様には、資料提供や現地見学会などを通じ国有林野事業についての理解を深めていただき、アンケートや意見交換等の中で、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしていきます。

東北森林管理局においては、平成28年4月から2年間、管内5県にお住まいの34名の方に国有林モニターとして活動していただいています。

さて、この度、国有林モニター活動の一環として、10月13日（金）に三陸中部森林管理署管内において、今年度の国有林モニター現地見学会を開催しました。

平成28年度に開催した2回の現地見学会では、それぞれ「治山事業」「森林整備事業」という、国有林野事業の根幹をなす事業を見学いただいています。

今回は、

「森林病虫  
獣害対策」

と「林業の  
低コスト

化」をテー  
マとして、

シカや松く  
い虫、ナラ

枯れによる  
森林被害と

その対策を知っていただくとともに、コン

テナ苗の植栽現場の見学と植栽体験を通じ

て、林業の低コスト化について理解を深め

ていただきました。

当日は、先ず、陸前高田市にある気仙大工左官伝承館に移動し、東北森林管理局企画調整課長・三陸中部森林管理署長より、それぞれ東北森林管理局・三陸中部森林管理署の概要を説明しました。また、気仙大工左官伝承館館長より、釘を使わない伝統



気仙大工左官伝承館で東北森林管理局・三陸中部森林管理署について説明

工法で、地元産の木材を用いてつくられた木造建築である伝承館についても説明いただきました。

続いて、大船渡市と陸前高田市の境界付近に位置する末崎山国有林において、松くい虫とナラ枯れの被害状況と被害木の処理方法を見学しました。松くい虫・ナラ枯れそれぞれについて、被害の発生するメカニズムや被害の概要、被害を防止するための取組について職員が説明を行いました。



被害木を囲んでナラ枯れについて説明

モニターの方からの「どうやって被害木を発見するのか。またナラ枯れ被害はどこまで北上しているのか」という質問に対し「林野巡視により職員が発見している。

日本海側は青森県深浦町まで、太平洋側は岩手県宮古市まで被害が確認されている」と職員が回答するなど、活発な質疑応答が行われ、「民有林と連携して対策を行っていくことが重要」などのご意見もいただきました。

また、大船渡市の同国有林においてシカによる下層植生や植栽木の被害、防鹿柵による植栽地の保護についても見学を行いました。



小型囲いわなやセンサーカメラを用いてシカ被害対策について説明



防鹿柵で保護されたコンテナ苗植栽地

職員がシカによる森林被害の説明を行うとともに、センサーカメラや誘引餌、囲いわな等の対策について、実際に器具や使い方を示しながら説明を行いました。

モニターの方からの「囲いわなの入口に

設置されているセンサーは、シカだけに反応するのか」という質問に対し「動くものを全て感知する。動物の種類までは識別できない」と職員が回答するなど、ここでも活発な質疑応答が行われました。また、「捕獲したシカを食料として有効活用できれば」などのご意見もいただきました。

さらに、防鹿柵の内側の植栽地では、コンテナ苗の特徴や植栽方法について、苗木や器具を用いた実演を交えながら説明を行い、苗木の植栽も体験していただきました。

体験したモニターの方からは、「土に苗木を植えるための穴をあけるのが楽」「女性でも簡単に植えられる」などのご感想をいただきました。



専用の器具を用いてコンテナ苗の植栽を体験

最後に、木造建築である三陸中部森林管理署庁舎を見学いただき、現地見学会は終了となりました。

見学会を通して、モニターの方々から、「被害の実態を見学でき、それぞれの対応や苦労の話をきくことができ大変勉強になった」「初めて見るシカ食害の現状に驚き、早急な対策の必要性を感じた」等の感想をいただき、東北森林管理局の取組等について、より一層理解を深めていただけたのではないかと考えております。

今後は、会議での議論やアンケートにより、モニターの方々に国有林野事業についてご意見・ご提案をいただく予定です。



三陸中部森林管理署庁舎前で記念撮影